

クロス分析

今回の分析では 27 種類のクロス分析を行いました。その中で特徴のある部分について解説いたします。

家族構成別 × 生活変化での関心事 (82 ページ)

男性の「単身世帯」の方は、60 歳以降の生活の変化での関心事で「収入や経済」と回答した人が 69.6%と平均を 20%上回っています。女性の「単身世帯」は、「収入や経済」に関しては平均的な回答でした。しかし女性の「単身世帯」は 5 人の回答なので、参考にならないかも知れません。

家族構成別 × 生活設計手段 (83 ページ)

男性の「二世帯同居 (親と同居)」の方は、「事業による収入」を 21.1%が選んでいます。新しいことに挑戦する気持ちが強いようです。

家族構成別 × 就労希望年齢 (85 ページ)

男性の「二世帯同居 (親と同居)」の方は、上記の生活設計手段と同じく、働く年齢でも最も多くのかたが 70 歳以上を選んでいます。新しいことに挑戦する気持ちがあると同様、いつまでも働く気持ちがあります。生計のために働くのか、生きがいとして働くのかはここでは判定できません。

職業別 × 生活変化での関心事 (89 ページ)

男性の「パート・アルバイト」の方は、今後の関心事に 90.9%の方が「収入や経済」を選んでいます。また 84 ページの「生活重視項目」とのクロス分析でも「仕事・事業」を回答している比率が高くなっています。60 歳を前に早期に退職し、経済面での苦労をすでに感じているようです。

職業別 × 生活設計手段 (90 ページ)

女性の「会社員・公務員」「パート・アルバイト」の方は今後の生活設計手段で、圧倒的に「年金」を選択しています。また「会社役員」「自営業」の方は「事業による収入」と回答

しています。2つのタイプがハッキリと分かれています。

職業別×生活設計（91 ページ）

男性の「無職」の方が、今後の生活設計に関して、26.7%「考えていない」と回答しています。他の属性はほとんど回答がないのに、この属性が目立ちます。今後の生活に関して無気力になっているようです。

職業別×希望職業内容（94 ページ）

男性の「パート・アルバイト」の方は、職業の内容を「どんな仕事でもよい」と27.3%も回答しています。81 ページ・84 ページの分析と同様に、現実の厳しさを体験している回答かも知れません。高齢者の再就職はたいへんな事が予想されます。

生活設計手段×就労希望年齢（103 ページ）

男性の「事業による収入」を選んでいる属性の方は、「70歳以上まで働く」を選んでいる比率が高くなっています。自営でいつまでも働くことが可能であるのと、年金収入が会社員に比べると少ないことも考えられます。

生活設計手段×希望職業内容（104 ページ）

男性の「就労による収入」と「事業による収入」の属性の方は、「現在の仕事」の継続を望んでいます。自営業の場合は、業種転換は考えにくいので当然の回答と思われます。会社勤務の方も、現状の仕事の延長や再雇用が希望なのかも知れません。

生活設計手段×収入形態（105 ページ）

男性の「就労による収入」の属性の方は、今後も「常勤の安定収入」を89.5%が選択しています。前問同様、同じ仕事で安定した収入ですから、1番本人が希望するのは、現状の会社や職種の延長のようです。

希望職業内容別×収入形態（108 ページ）

男性の「現在の仕事」の属性の方は、やはり「常勤の安定収入」を82.0%選択しています。まだまだ現役を継続する気持ちが表れているようです。